

同志社大学フォーミュラプロジェクト
支援者様

平成 30 年 10 月 2 日

同志社大学フォーミュラプロジェクト

9 月活動報告書

初めに 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震において、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

初秋の候、ますますご繁栄の事とお喜び申し上げます。平素は格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。この度は、同志社大学フォーミュラプロジェクト（以下 DUFPP）の活動について報告させていただきます。現在、当プロジェクトではスポンサー企業様・個人支援者様の御支援・御協力により活動を進めており、全日本学生フォーミュラ大会でより高い成績を獲得するための車両を作り上げるべく、設計を行っております。そして、多大なるご支援していただいております企業の皆様、先生方、OB の皆様方に深く感謝いたします。今後とも宜しくお願い申し上げます。



Fig.1 大会時の集合写真

1. 活動報告

第16回全日本学生フォーミュラ大会

9月4日から9月8日に行われた第16回全日本学生フォーミュラ大会に出場しました。結果は以下の通りです。

- ・デザイン 41 位
- ・コスト 7 位
- ・プレゼンテーション 78 位
- ・アクセラレーション 33 位
- ・スキッドパッド 出走なし
- ・オートクロス 57 位
- ・エンデュランス 64 位(4周目リタイヤ)

総合 57 位

2018年度の大会に向けて活動を行っていた弊チームへ厚くご支援賜りましたことに、深く御礼申し上げます。

昨年の失格という結果から一つ上の段階へ到達できた一方、この一年間の取り組みで自分たちはより高い目標を目指した中でこのような結果になったことに対し大きな悔しさを感じております。今大会を通して、良かった点、悪かった点をしっかりと反省し、来年の大会に向け活動に尽力してまいります。

今後とも宜しくお願い致します。



Fig. 2 大会走行時の様子

DF19 発足会議

9月16日に2019年度新チーム発足の会議を行いました。
内容としまして、組織図の一新、年間計画の決定、1年生の班配属、チームコンセプトの決定等を行いました。チームメンバー、及び組織図に関しましては弊チームのホームページをご覧ください。

また、簡単ではありますが、各部門の代表を紹介いたします。

チーム代表	今村宏彰
エアロ代表	水野涼
エンジン代表	今村宏彰
サスペンション代表	福生亜斗
電装代表	今村宏彰
ドライブトレイン代表	古本駿
フレーム代表	宇賀神友康
ブレーキ代表	岡田開登
会計代表	古本駿
総務代表	今村宏彰

また、チームスローガンは
「ジャンプアップ賞の獲得」
に決定しました。

それに伴い、
パワートレインコンセプト「信頼性の確保」
シャシーコンセプト「コーナリング性能の追求」に決定しました。

2019 年度 DUF P 代表挨拶

今年度代表は前年度代表の菊居から今村に引き継ぎますことを報告致します。

初めに、弊チームをご支援くださった皆様に深謝申し上げます。

2018 年度大会では悔しい結果に終わる一方で、3 回生を含め弊チーム OB の方の偉大さ、更にはスポンサーの皆様のご支援があり貴重な体験ができていると感じた年となりました。

学びの場である弊チームに在籍出来る喜びを感じながら、この悔しさを忘れずに 2019 年度 D. U. F. P. が少しでも向上し、更には飛躍の年になるよう尽力致します。

同志社大学フォーミュラプロジェクトチームが目標を達成できるよう日々活動してまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。

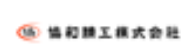
DR(2018 年度フィードバック)

9 月 22 日に松浦様に弊大学にお越しいただき、第 16 回大会のフィードバックをしていただきました。

来年度設計に向けて新たな方針を確実なものにするために、それぞれが足りない点を再考するための機会にもなり、2019 年度車両に向け、より一層計画を明確なものにすることができました。

お忙しい中、弊大学へお越しいただいた松浦様に御礼申し上げます。

スポンサー様



同志社大学 機械系学科
教職員・非常勤講師の皆様
DUFF OB-OG会の皆様

最後に

“大会に出場する”という形では、弊チーム全員が初体験の中、多くの人と関わり、自動車や一つもモノを作って動かすことの難しさを様々な方向から学ぶことができた大会となりました。2018年度メンバーは2017年度大会の悔しさを、2019年度メンバーは2018年度大会の悔しさを味わう一方で、そのような経験をしてチーム全体が一步ずつ前進できることをこの一年を通して感じました。これからも挑戦する心、探求する意欲を大切に活動に尽力してまいります。

最後になりますが、弊チームをご支援くださった皆様に心より御礼申し上げます。

今後も宜しくお願い致します。

今年度で節目を迎える3年生からお言葉をいただきましたので掲載いたします。

菊居龍之介(プロジェクトリーダー・エアロ班・ステアリング班)

今年度プロジェクトリーダーを務めました菊居です。僕は、モノ作りがしたくて入部し、2年間という長いようで、とても短く濃い時間を過ごさせていただきました。1年目は大会にも出場することができず、スポンサーの方々にもご迷惑をおかけし、自分の未熟さを思い知らされる年となりました。2年目はリーダーを務めることになりました。スポンサー様の有難さを感じ、歴代のOBの方々の偉大さをより痛感させられ、また自分自身も一度途切れたことをやり直すということを大学生活の中で出来たのは良い経験でしたし、モノづくりの難しさを実践的に経験できたと思います。

最後になりますが、スポンサー様、大学の教授の方々、OB.OGの方々、両親、そしてチームメンバーのご支援、ご指摘など、沢山の支えがあり、今のD.U.F.Pが成り立っています。今大会は、満足のいく結果には至りませんでした。来年度はさらに飛躍の年になると思いますので、今後ともD.U.F.Pをよろしく願いいたします。

瀬口大貴(エンジン班・電装班)

エンジン・電装班 B3 の瀬口です。

この活動がしくて入部してから 2 年が経ちました。昨年度は設計の右も左もわからないまま時間が過ぎ気づけば失格となりました。大会に出られなかった悔しさが来年度は絶対に出て上位にいてやると意気込んでいました。2 年目の今年度は新たに後輩ができました。授業の関係で任せっきりの時期もありました。そんな時期を経て大会本番を迎えました。本年度は完走できなかった悔しさが残りました。

失格になった頃から考えると、スポンサー様はじめ、大学の先生方や OB/OG、両親や周りの方のおかげで、車検を通すことができ動的に進めてマシンを走らすことができたと思っています。

山あり谷ありでしたが、いい経験ができたと思っています。

今後とも弊チームをよろしくお願いいたします。

村井大樹(ドライブレイン班・ブレーキ班)

僕は、大学に入り学生フォーミュラという活動を知りました。興味があり、かつ自分が苦手である分野に挑戦したいと思い入部しました。大学、企業の方と関わるこの活動は非常に刺激的でした。力を貸して頂いた皆様、本当にありがとうございました。

和田薫(会計・サスペンション班)

2 年間お世話になりました。同志社大学フォーミュラプロジェクトでサスペンションと会計を担当しました和田です。

このチームに入った動機は車の仕組みを勉強したかった為でした。

この 2 年の間、チーム運営において平静な時間というのは存在しませんでした。明るく日も明るく日も問題解決に臨む日々で、ついぞ問題解決の検証に手が届かなかったことが悔やまれます。自分のやりたい設計が途中、工学というよりは机上で行う理学であるという気づきがあり、車両に搭載する設計とは違う方面を向いてしまっていました。好きなようにさせてもらったメンバーには迷惑を掛けていたように思います。

会計として、スポンサー様や大学関係者の皆様には多大なるご迷惑をおかけした一方で厚いご支援を賜りました。あと数ヶ月、会計としてチームに在籍しますが、より一層スポンサーの皆様への還元やスポンサーと弊チームの関係の向上に尽力する所存です。

あとほんの少し、お付き合いいただきますようお願い申し上げます。

奥山隆世(電装・エンジン班)

約2年間、お世話になりました。僕は、「“たった”一台の車が、どのようにして作られているのか」というのに興味をもってこの活動に入りました。そして、2年間たった今、僕が一番学んだものは「出会い」の大切さです。当たり前のことなのですが、一台の車を作るためには、たくさんの「物資」が必要です。そして、それらを手に入れて“立派な走る車両”を一台作るためには、スポンサー様や大学関係者の方々の温かいご支援、そして、チームのメンバーとのチームワークが必要だと、そしてこれらをすべてひっくるめて「出会い」の大切さを学びました。

特にメンバーには数々の迷惑をかけてばかりでしたが、いつでも支えてくれてありがとうございました。この活動での“たった”一台の車が、僕に与えてくれたものは、“数えきれないほどの”宝物です。

最後になりましたが、本当にありがとうございました。

あと1年また、新たに頑張りますので、何卒よろしく願いいたします。

同志社大学フォーミュラプロジェクト
2019年度プロジェクトリーダー 今村 宏彰
〒610-0394
京都府京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学
URL: <http://dufp.racing>
E-mail: cgub4023@mail4.doshisha.ac.jp
